

令和3年度 学校評価（職員用）結果分析・考察

1 回収率（計 98／107名 回答率91.5%）

幼小学部 37／42名

中学部 26／26名

高等部 35／39名

回収率（計 11／13名 回答率84.6%）

事務現業 11／13名

2 課題及び今後の取組

(1) 評価結果の比較と良かった項目（80%以上）について

R2年度：職員項目；44／53項目 ・事務現業項目；14／14項目が「達成・ほぼ達成」。

R3年度：職員項目；48／53項目 ・事務現業項目；14／14項目が「達成・ほぼ達成」。

- ①生活態度の育成、教科別指導等の指導内容、指導の連携、適切な評価、生徒・生活指導、家庭や施設の連携、職員間の協働体制、安全指導、保健給食、環境美化、学校施設とその運営に関する項目に80～90%以上の高い評価が得られた。
- ②事務現業部においても会議等を含む教育参加、危機管理体制、施設管理、事務分掌実施、情報共有・管理の項目に高い評価が得られた。

(考察・対応)

○今年度は、コロナ禍ではあったが、「通常登校」を実施することで、幼児児童生徒の学習保障を第1とし、学童等・施設等、関係機関でのコロナ感染拡大の軽減も図りつつ、家庭と連携し子ども達の安心安全な環境を設定することを重点化してきました。更にコロナ禍における保護者等の日常的負担を最小限にできるよう学校が担える運営を再建し子ども達のより安心できる環境づくりをめざして、職員、保護者、関係機関と協働で連携することができました。

高い評価数値は、全体的な検知から判断して、常に学校全体、各学部、各所属の職員が実態・状況を的確に把握し計画・実践・評価・改善にそった振り返りのマネジメントを心がけ実践してきた結果だと推測されます。

今後も学校経営方針と目標を把握し各学部経営案、教育課程、教育支援システム等の核となる柱を熟知しベクトルを共有して行くことが大切です。柱を踏まえることが、個々の業務計画の適正が図られ、効率的な実践につながり学校の成果に繋がると思慮されます。

(2) 令和3年度職員の学校評価結果について、評価1と2の和が11%以上に達している項目について

○今年度も引き続き、コロナ禍の年度スタートであった。マイナスの数値は、昨年度より低くなってはいるものの、低年齢者へのコロナ感染の増加。更に幼児児童生徒の家庭及び職員の家庭内感染の拡大に伴い、学校がその対応に追われ、一時業務停止に近い状態になったり、学校として、安全対策を繰り返し再検討するといった状況が発生し、その対応に時間がかかり通常の業務進行、授業内容の変更、軽減策を講じたため満足した学校運営を実施できなかったから低い評価が少数出たと考察されます。

しかし、職員、保護者、関係者のご理解と迅速な対応のおかげで、最小限に抑えられたと思慮されます。

- ① 項目2「指導に関わる全教職員で幼児児童生徒の個別目標について共通理解が図られている」(19%)
- ② 項目3「個別の指導計画を活用し、幼児児童生徒の障害の状態とその特性に応じた適切な指導が行なわれている。」(11%)
- ③ 項目5・6・7の教育計画、「指導内容が年間を通して配列されている」(16%)、学校行事等と関連した計画が考慮されている(22%)、計画(コロナ対策時を考慮しつつ)された授業時数にそった対応がとれている。(12%)
- ④ 項目8の「学習指導要領に示す各教科等の内容を踏まえた指導がなされている。」(14%)
- ⑤ 項目13・14の「～発展的・横断的な指導が行なわれている」(12%)、「共通理解や指導体制の連携が図られている」(11%)
- ⑥ 項目15・17の「～実態に沿って設定」(17%)、「～各教科等との連携」(11%)
- ⑦ 項目25・26の「～働く意欲・態度など養うための取り組みを適切に行っている。」(16%)
「～情報提供に努め、適切な進路指導を行っている」(17%)

(考察・対応)

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による通常の計画が崩れ、その対応に授業実践、計画の見直し案の作成に時間を要した結果が上記の項目の数値の高さに繋がったと推測されます。引き続き対応策として、文部科学省、沖縄県教育委員会からの感染症に係るガイドラインを踏まえ、今後の特別支援教育を見据え地域性を考慮した本校の教育課程の立て直しを図っていきます。コロナ禍の中での教育環境の整備(オンライン授業及び諸会議、研修、儀式等への新しい対応策)の準備、状況に応じた授業計画、実践に繋げていき「少しでも何が出来るのか」を共有していきます。更に校内研修を進めつつ全職員が協働体制を高め、職員個々の専門性の向上または説明力、実践力につなげて行く取り組みを図って行く必要性もあります。

(3)その他評価項目にない「意見」等(集約)

1 教育目標

- ・支援計画、指導計画の活用に関しては、担当が中心になって扱っている。今後、教育課程の編成に伴って、小学部でも担当制と教科担当制(グループ別学習など)教師間で共有すること大切になってくると思う。学年内からでも、少しずつ共有していきたい。進級に伴って「学びの履歴」をきちんと引き継げるように全教諭が意識していければと思う。
- ・業務量が多く、教材研究や授業の準備をする時間が取りにくかった。
- ・来年度以降、身辺処理等の指導を行う時間が短くなるため、教育目標②は見直した方がいいと思います。
- ・職員間で、個別の指導計画等の共通理解する時間が確保できない。
- ・連携が図りやすくなる体制を今後どのように計画・実施するか各学部で検討していく必要がある。
- ・新しい指導計画の書き方について詳しく知りたい。

- ・個別の指導計画の活用が難しい⇒何が難しいのか内容を明確にして改善を図る。
- ・対応職員数の確保(病休)(コロナ関連対応)⇒教科間、学部間で対応
- ・高等部は早下校がないため、放課後の時間で話し合い(学年会、学級会、教科会等)を持つ事が難しく、更に今年度はコロナ禍も加わり、情報交換会が十分にできなかった。次年度以降、職朝の設定も難しくなっていくとどうなるか。自分達で時間を見つける事でしか改善策は考えられないが、不安がある。

(考察・対応)

- ・上記(1)(2)の(考察・対応)を参照
- ・個々の時間の確保に関しては、限られた勤務時間を有機的にするためには、全体的な会議、研修等の内容を見直し、年間単位、月単位等でシンプル化し日々の時間の確保に繋げる必要があります。

2 教育計画

- ・教科ごと、各教科において指導の偏りがある。指導要領の指導内容について、研修を積んでいきたい。
- ・コロナ禍ながら計画された授業時数をこなしていると思う。
- ・コロナ禍の中、授業時数の確保は、最大限できたと思う。

3 教科別の指導・領域別の指導

- ・指導の偏りについて、教諭の認識がない気がする。目標設定、評価については3観点設定は今からである。
- ・実態に応じた教科指導を行うためには、より学年間の連携が必要になってくると思う。
- ・次年度、「生きる力」を重視し、基礎的・基本的事項の徹底」について共通理解が必要である。

4 各教科等を合わせた指導

- ・児童の欠席が多く、継続して繰り返し行いたい指導が難しかったので、リモート授業の実施や課題の出し方などの工夫、再検討が必要。
- ・指導体制について連携を取りたいが、業務量が多く時間外に指導体制について会議を持つことが多かった。
- ・コロナ対策のため、集団的な特別活動は困難だった。

5 特別活動(行事・児童生徒会)

- ・生徒会役員だけでなく、全生徒が生徒会会員として活動できる時間(特活)が設定できないだろうか⇒学部間で意見を集約し検討していく。

6 交流及び共同学習

- ・リモート会議システムのよりよい活用 ・ コロナ感染症防止のため実施できなかった。
- ・ コロナの影響で仕方が無い
- ・ 同学年のみ国語・算数の授業グループ別学習に取り組み良かった。

- ・コロナの影響で今までの交流の捉え方では厳しい新しい交流の仕方を工夫しながらできる範囲で行えている。
- ・直接交流は難しかった。工夫して今できる交流(リモート)を実施した。
- ・感染症予防の観点から実施が難しかった。感染症状況の改善があれば、達成できると思う。
- ・他学年等との交流が見送られたので仕方ない。コロナが落ち着いたら再開したい。
- ・コロナ禍で、学校間交流も、居住地校交流も実施できなかった。
- ・例年おこなっている高嶺中との交流会はコロナ禍でリモート実施になったが仕方がない
- ・コロナ禍で制限がある中、リモートによる他学校との交流をがんばっていたが、知的の生徒にとって、生での交流は、やはり貴重だと感じる。
- ・コロナの影響で実施できていない
- ・コロナ感染状況が落ち着くことで改善される
- ・今年度は仕方がない。
- ・コロナ禍で制限のある中で、やれることはやっているといます。

7 生徒指導

- ・適宜、学部で情報を共有できるのでよい。
- ・生徒の実態が時代と共に変わってきているので、校則等も検討が必要ではないか。
- ・特に外部生(軽度知的障害)への対応に苦慮する場面が多くなってきている。

8 キャリア教育 進路指導

- ・中学部での体験学習が良かった。中学部の負担が無ければ今回同様に2週間程度の期間が良いと思う。➡学部間で検証。
- ・コロナ禍で、ほとんどの体験ができていない。
- ・進路部と保護者、生徒と面談等を通して行うことができる。
- ・コロナ禍で社会とつながる活動が設定しにくかったのが残念。
- ・コロナ禍の中で進路指導部の先生方はとても大変だったと思いますが、できることを前向きに捉え良く動いていただいたと思います。

9 教育相談

- ・支援部の対応にとっても感謝しています
- ・学年、保護者、支援部と連携は行っているが、更にアドバイザー的な支援がほしいです➡巡回アドバイザー等の活用も検討。
- ・支援部メンバーが相談にのってくれるので助かっています。

10 安全指導

- ・コロナ対策の徹底に努めた。学校として感染防止対策、精一杯できていると思う。避難訓練等、例年以上の取り組みで、いろいろと考える機会を得た。
- ・糸満駐車場のドアが開きっぱなしの時がある。全職員意識してカギをする➡再周知。
- ・津波の避難場所が遠く、心配➡訓練を繰り返し実施することで不測な状況に対応出来るようにする。
- ・天候によって左右される。体調や薬の服用による想定外な動きがあった時について課題。

・地震津波災害対策については継続して取り組む必要がある。

11 保健・給食

- ・肥満対策について、もっと家庭と一緒に積極的な取り組みをしていきたい
- ・コロナ禍での給食対応が難しく、職員間でも意識の違いを感じた
- ・養護教諭・保健係のコロナ関係に関する丁寧な対応に感謝しています。表にはでない対応も多いとおもいます。ありがとうございます
- ・養護教諭や保健指導部の先生方が連携してコロナ禍対応の先頭に立って動いて下さいました。感謝です。

13 校内研修

- ・授業検討会を実施する時間が確保できない。
- ・直接的な授業検討会はやっていないため「主体的な授業作り」の工夫改善に関しては判断できないと思う。
- ・大きな変革の時期で大変ですが、次年度以降も知恵を出し合って乗り越えられたら良いと思います。

14 家庭、地域社会 との連携

- ・コロナ禍で厳しかったと思う

15 特色ある学校づくり

- ・リモート学習に関する知識を増やしていかないと、情報の先生方への負担が大きくなる。
⇒ 校内研修の設定

16 学校運営・その他

- ・学部室内の個人デスクに鍵が無く、安心して個人の貴重品を学校内に持ち込めない。
- ・バス部との連携が取りにくい(連絡したが伝達ミスがたまにある、乗せ忘れなど)
- ・スクールバス内での指導について、介助の先生にも協力をして取り組んでいます。ありがとうございます。運転手さんの子どもたちの関わりが増えて、ありがたいです。